

幼児教育における石原キクと戸倉ハル

中島 弘子(比較舞踊学会)、永野 順子(文化女子大)、森下 はるみ(比較舞踊学会)

目的

戦後日本の幼児教育界に大きな足跡を残した二人の女性、石原キクと戸倉ハルの足跡をたどり、無名に近かった石原キクに焦点を当て、同時代の戸倉ハルと対比することで、その実像と功績を明らかにする。

方法

末尾に示した参考資料を基に、二人を対比する項目として ①学徒として、②教育者として、③創作者、研究者として、の3つの視点から考察した。

結果と考察

石原は1884年広島県広島市に生まれ、1967年に没した。享年83歳であった。戸倉は1896年香川県丸亀市に生まれ、1968年に72歳で没した。明治に生まれ、明治末から大正時代に教育者となった二人は太平洋戦争をくぐり抜け、その後の20年を教育に生きた同時代人であった。

学徒として

- ・石原 1904 東京保姆伝習所(現：頌栄保育福祉専門学校)卒
- 1906 シンシナチ大学保育師範学校入学 2年後、同大学専攻科へ入学
- 1909 ウェスタン大学で教育、心理、保育学専攻
- 1917 コロンビア大学教育大学保育学科3年入学 2年後、同大学大学院入学
- 1963 ウェスタン大学より博士号取得
- ・戸倉 1916 東京女子高等師範学校附設第六臨時教員養成所家事科第一部
- 1922 東京女子高等師範学校研究科入学

<石原の高等教育の基盤はほとんどアメリカにおいて獲得されたが、戸倉のそれは日本の公立(官立)教育であった。いずれも、明治期に高等教育を受けた数少ない女性であった。>

教育者として

- ・石原 1910 東京保姆伝習所の所長、彰栄幼稚園園長、
- 1915 日本幼稚園会初代会長
- ・戸倉 1918 高知師範学校教諭
- 1924 東京府立第六高等女学校教諭
- 1933 東京女子高等師範学校助教授
- 1962 日本女子体育短期大学教授

<石原の教育対象は保育を学ぶ学生と幼児であったが、戸倉は幼・小・中・高の教員養成を目的にダンスを創作し指導した。後に教育政策にも携わり、多くの後継者を育成することになった。キリスト教会の支援を受けて米国に留学した石原は帰国後、後輩の育成と母校の発展に尽くすことを自身の使命と自覚し周囲もそれを期待したと思われる。一方で戸倉は最高学府における少ない女性教員の一人としてその指導的立場と責任を自覚して全国にダンスを普及したと思われる>

創作者、研究者として

・石原

在学中に恩師タッピングからフレーベルの「母とおきな子の歌」による指導を受けた後に留学、米国で学んだことを中心に編纂した曲集「Instrumental Characteristic Rhythms for home school and kindergarten」を「律動」と訳して、総合的保育内容の教材として使用していたが、この初版より先に土川五郎が外国の“Rhythm play”を訳して「律動遊戯」を発刊している事実があり、何れの創案か決め難い。一見、rhythm play と捉えられがちであるが、保育内容の切り口の一つとして扱っている点が石原の保育者たる所以であろう。

・戸倉

音楽家小林つや江との共著で「うたとあそび」2巻と「いろはあそび」に国内外の子どものための歌を集めて、保育者や保育者養成校のテキストとして使用した。既成曲で不足している部分は自作のことばに作曲を依頼したり、動きに合わせた伴奏曲を専門家に依頼するなど、選曲には厳しい見識を持っていた。全国伝達の立場上、あくまでも参考にと付して動作や取り扱い上の注意を加えている。主著として「学校ダンス創作集」(第1～3集)「うたとあそび」(I II)などを残した。＜両者の活動が何れも音楽と密接に関わっていることが重要な共通点で、幼児の自主性を尊重し、音楽を聴いて感じたことを自由に表現する方法は、戦前の教育現場では画期的な存在であったに違いない。学歴も環境も異なる両者の共通理念のルーツはこの点で交わる。

1840年に世界初の幼稚園をドイツに開設したフレーベルが編纂した「母の歌と愛撫の歌」がドイツ人、松野クララによって東京女子師範学校に伝えられたのが1876年、20年後れてドイツで音楽を修めたアメリカ人宣教師タッピング夫人によって東京保姆伝習所が創設、何れも上記の文献が使われた記録が残っている。石原は直接、戸倉は日本のフレーベルと称された倉橋惣三を通して間接的に影響を受けていたので、戦後の大変革に惑わされることなく自らの信念を貫き、現在の「環境による総合的教育」「発達段階に即応した保育」への礎を築いた功績は大きい。

両者とも、幼児のための遊戯、リズム運動の創作に熱心に取り組んだが、創作の理念を著した書や研究書を残すことは無かった。遊戯やリズム運動の手引書を多く残した実践者であった。>
まとめ

1. 石原は高等教育をアメリカで受け、母校、東京保姆伝習所(現、彰栄保育福祉専門学校)と付属幼稚園の発展に尽くした。周囲からの期待もあり、本人も使命を自覚していたと思われる。戸倉は国・私立の大学で教鞭をとり、国内に人脈を広げ、地方にも多くの後継者を残した。
2. 石原と戸倉が共鳴する点は、フレーベルの保育理念に影響を受けていたことである。幼児の自主性と自由な表現を尊重し、遊戯やリズム運動のための手引き書を残した実践者であった。

参考文献

- 1) 桐生啓子：学校ダンスの普及者：近代日本女性体育史 pp 239-262 1981
- 2) 中島ほか：「律動」にみる石原キクの保育理念：頌栄表現研究所研究紀要 vol.125-59,2001
- 3) 彰栄学園百周年記念誌編集委員会 編：彰栄学園百年誌 彰栄学園 1996
- 4) 彰栄学園 編：彰栄保育百年 第1集 彰栄学園 1994
- 5) お茶の水女子大学付属幼稚園 編：年表 幼稚園百年 国土社 1976
- 6) 土川五郎：「律動遊戯」：律動遊戯研究所 1917